

ユーザーレポート

ゼロ
0の証明

この人は、なぜ平然としているのか……

個人

恐ろしい出来事の裏で繰り返されていた隠れ飲酒と、警察、病院に見放された家族の絶望

いつ我が身が加害者になるか知れない恐怖。
誰も助けしてくれない絶望の淵で、家族が見つけた唯一の救い
「本人は自覚がない」「注意しても隠れて飲む」「警察や病院に相談しても決定的な解決策がない」。
アルコール依存症を抱える家族の苦悩は、外部からは見えにくい深い闇に包まれています。今回は、夫の飲酒運転と闘い、アルコールインターロックの導入によって日々の恐怖から抜け出そうとしているSさんご夫妻（関東地区在住）にお話を伺いました。

ご利用機器

カメラ付き
アルコールインターロック装置

ALC-ZEROⅡ



は外で外食しよう」という話になり、夕飯を食べに出かける道中での出来事でした。街灯の少ない暗い道を車で走らせていた際（※雨が降ればさらに危険性が増すような状況の中）、赤信号を無視して歩行者を轢きそうになる重大な出来事が発生しました。



日常が崩壊する瞬間…

「まさか」では済まされない飲酒運転の足音

関東圏へと引越し、セカンドライフを満喫するはずだったSさんご夫妻。夫であるご主人（66歳）は、若い頃からお酒が好きで、リタイア後の日常にも「仕事が終わった後のビールやチューハイ」がルーティンとして定着していました。

しかし、その日常は少しずつ歪み始めていました。妻である奥様は、ご主人のバイク通勤や日常の些細な言動から「またお酒を飲んでいるのではないか」という不穏な予感を感じていました。健康診断では肝機能数値（γGTP）が基準値と比べて桁違いに高い状態が指摘されていたものの、ご本人は「自分は大丈夫」「医者が脅しているだけ」と取り合いませんでした。

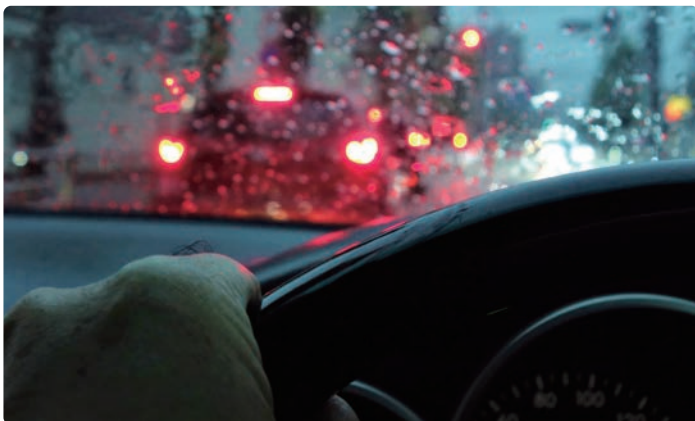
決定的な転機となったのは、ある夜のことでした。遠方にいる子供のところへ出かけ、いったん自宅へ帰ってきた後、落ち着いてから「今日

【奥様の言葉】

「赤信号だったのに止まらなかったんです。歩行者が出てきて、すごかったです。でもこの人は平然としていて、『向こうが悪い』と怒るんです。普段の様子と違う、いつもは私が罵声を浴びせても落ち着いているのに、この日だけは逆ギレしました。自分に非があるのを理解しているからこそその怒りなのでは…と感じたんです。ましてや、これだけ轢きそうになったのに全然平気でいる事に恐怖を通り越して、何かがおかしいって思いました。」

その後も、本人の意思だけでは飲酒と運転の結びつきを断ち切れない現実が、次々と家族を追い詰めていきました。

ある時はゴルフ帰りにふらついた状態で帰宅し、自宅にあった市販のアルコール検知器で測定したところ「0.16」という高数値が検出されることがありました。また別の時には、隠れてお酒を飲んでた痕跡が見つかったり、家族が問い詰めても「飲んでいない」と否定し続けたりするなど、日常のあちこちで危機的な兆候が表面化していきました。



ユーザーレポート

ゼロ
0の証明

個人

「警察も病院も助けてくれない」 家族を追い詰める依存症という底なし沼

問題の深刻さに気づいた奥様は、どうにかして飲酒運転を止めなければならぬと、警察や病院にも相談を持ちかけました。

警察や病院から完全に門前払いされたわけではないものの、当時の状況は、明日をも知れない切羽詰まったものでした。

事故が起きる前に、とにかく今すぐ飲酒運転を防ぐことができる「即効性」と「確実性」のある方法が、喉から手が出るほど欲しかったのです。いつ我が身が加害者の家族になり下がるか知れないという逃げ場のない恐怖と、目の前で崩壊していく日常へのプレッシャーは限界を超え、家族の平穏と心をすり減らしていきました。

【参考】アルコール依存症と飲酒運転の構造

本人は「この程度なら大丈夫」「これまで事故を起こしたことがない」という成功体験から、脳の理性が麻痺し、危険性を過小評価してしまいます。家族がいくら叱責しても、依存症の特性である「隠蔽」や「否認」の壁に阻まれ、家庭内だけで解決することは極めて困難です。



※写真はイメージです

悲劇の連鎖を断ち切る 物理的な「歯止め」にかけた家族の最後通牒

どうにかして飲酒運転を止めなければならぬ…。その切実な思いから、息子さんが夜な夜なインターネットの海を検索し、藁にもすがる思いで見つけ出したのが、東海電子の「アルコールインターロック」でした。はじめは運送会社やバス会社などの企業が使う業務用機器という印象が強く、一般の家庭で取り付けられるものなのか不安もあったといいます。しかし、詳しく調べていくうちに個人向けにも対応していることが判明し、「これしかない」と家族全員の強い決意と勧めの末、ご本人とも何度も話し合い、納得してもらって導入へと踏み切りました。いざ導入を決意してから、個人への設置にはいくつものハードルが

ありましたが、メーカーの担当者や全国をきめ細かくサポートする専門エンジニアらが親身になって相談に乗り、万全の支援体制のもとでご主人の愛車へと慎重に装置が取り付けられました。

実際に装置が稼働し始めてからのログデータを確認すると、そこには目を背けたくなるような現実と、同時に確かな「救い」の記録が残されていました。昼間の時間帯やゴルフの前後など、ふとした気の緩みやアルコールの誘惑に負けそうになった瞬間、装置がしっかりとアルコールを検知し、何度もエンジンをロックしていたのです。

データが物語っていたのは、もしこの物理的な歯止めがなければ、本人が無自覚のまま、あるいは隠れて再びハンドルを握り、取り返しのつかない大事故を引き起こしていてもおかしくなかったという冷徹な事実でした。あの時インターロックさえあれば…いや、この装置があったからこそ、最悪の事態へと繋がるはずだった危うい瞬間が、間一髪のところで確実に防がれていたのです。



加害者にも、被害者にもさせない… 今、同じ苦しみのなかで悩むあなたへ

現在、ご主人は精神科に通院し、飲酒欲求を抑制する薬の服用や、隔週での断酒会への参加を続けています。完全な断酒には至っていませんが、「車には飲んだら動かせない物理的な仕組みがある」という安心感が、最悪の事態への歯止めとなっています。

しかし、安心できるのは車だけであり、ご主人の移動手段や「逃げ道」には依然としてバイクという懸念が残されていました。車に装置を導入したものの、バイクが新たな飲酒運転の温床になりかねないという疑わしい状況があり、「バイクにもインターロックを取り付けることができる」という選択肢を伝えました。家族としては、バイクにも装置を装着したほうがより確実な安全を確保できると考えています。

それに対し、ご本人はバイクへの装着について曖昧な返事を繰り返すばかりで、一体どのようなお気持ちでいるのか、その真意を家族が理解

ユーザーレポート

ゼロ
0の証明

個人

するのは非常に難しい状況でした。飲酒運転をどうしても自分の意志だけで止められないご主人を前に、「夫を信じたいけれど、病気だからこそコントロールが利かない」という途方もない不安と向き合いながら、奥様と子供たちは手を取り合って必死に前を向こうとしています。

【奥様のメッセージ】

「お金の面を考えると、決して安くはない負担だとは思いますが。それでも、もし同じように家族の飲酒運転に頭を悩ませている方がいたら、ぜひ『アルコールインターロック』の導入を検討してほしいと心から願っています。我が家はこの装置を設置して、本当に良かったと実感しているからです。大切な家族が加害者になってしまう前に、そして取り返しのつかない悲劇が起きる前に、確実な歯止めとなるこの選択肢に頼ってほしいと思います。」



取材を終えて

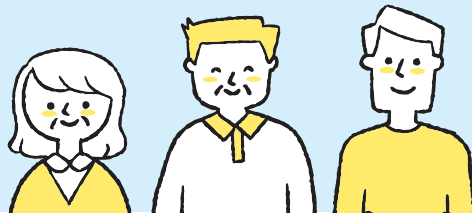
飲酒運転は「個人のモラル」だけで解決できる問題ではありません。アルコール依存症という脳の病気が絡むからこそ、人間関係や叱責だけでは防げない領域があります。アルコールインターロックは、運転者本人を致命的な事故の加害者にさせないための、そして家族の心を守るための、優しくも強力な「命の盾」となっています。



※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

取材ご協力

家族を守る方法の手段として、
アルコール・インターロックを導入されたSさんご一家



アルコール・インターロック
社会実装と個人装着を推進する

特設サイト

アルコール・インターロック.com
～飲酒運転加害者をゼロに～

東海電子WEBサイト

【アルコール・インターロック.com】

<https://alcohol-interlock.com/>



LINE 公式アカウント

大切な人の飲酒運転で 悩まれていたら…

@700xyfip



いつでも LINE で ご相談ください！